

(国語科)

「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の充実をめざして」

—主体的・対話的な学びの実現に向けて—

大阪市立放出小学校 研修部

1. 研究の趣旨・研究主題設定の理由

本校では、昨年度の研究主題を設定するにあたり、「本校の児童に足りない力は何か」について話し合った結果、

- ① 児童はよく発言するが、うまく交流ができず考えが深まらない。
- ② 日常のトラブルの多くは、「相手の話を十分聞いていない」「一方的に自分の考えを主張する」ことに起因する。

という課題が見つかり、話し合う力が足りないことが分かった。

そこで、平成29年度の研究を「話し合い活動の充実」に重点を置いて進めた。しかし、研究を進める中で「自分の考え」をうまく表現できない児童が多く、そのため良質な話し合いができないことがわかってきた。話し合い活動には、思考力・判断力・表現力が必要であるが、本校児童にとっては、特に「自分の考え」を表現することが課題であり、その手立てを考えることが重要であった。

以上の反省を踏まえ、平成30年度の研究主題を上記のように設定し、「自分の考え」を表現することの第一歩として、文章で表すことを考えた。しかし、書くことに抵抗があったり、書いても考えがまとまっていなかったりする児童が多く見られたので、本年度は、「書く力」を身に付けることで「自分の考え」を表現し、話し合い活動を活性化（主体的で対話的な学び）させることを目指した。本年度の取組をステップに、次年度は深い学びが実現できるよう段階を踏んでいくことにした。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 「書く力」「語彙力」を育成し、活用できるようにする。

自分の思いや考えを適切に書き記していく「書く力」、対話や文章の中で使うことのできる言葉や語句をみつける「語彙力」を育成するために次の3点を中心に研究を進めた。

(1) 視写

文章を正しく書き写す「視写」は以下の点で有効であると考えた。

- ・ 正しい言葉や語句が自然と身に付く。
- ・ 書くスピードが増すことで、自分の考えや意見を書く量が増える。
- ・ 「書く」ということへの抵抗感が減る。
- ・ 様々な文章に触れることで、多くの語彙に出会う。

(2) 自分の考えを書く手立て

ノート指導を重視し、各学年で「書く」指導を進めた。

- ・ 児童が授業の内容を振り返りやすいように見開きページを原則とし、その中で収まるように板書計画・ノート計画を工夫した。
- ・ 「自分の考え」を表現するための手立てとして、ノート指導を行った。
- ・ 使用しているノートのマス目に合わせて板書計画・ノート計画を立てることで、自分の考えを書くスペースを確保できるようにした。

- ・ メモ欄を作成することで、友だちの意見や新出語句を書けるようにし、考えを深めたり語彙が身に付く工夫を行った。

(3) 語彙を増やす手立て

多くの文章に触れさせたり、辞書の使用で正しい言葉の意味を理解させたりすることで語彙力をつけさせる。

- ・ 低学年においては、いろいろな言い方や、学級で見つけた言葉を教室に掲示した。
- ・ 第3学年で辞書の使い方を学習するので、以降の学年において教室に辞書を常設し、辞書の使用を推進した。

視点② 交流や協働の場を設けるなど、「話し合い活動」を意識した授業展開をする。

「話し合い」を活性化させるために、学年に応じた基本的な発表の仕方（話型）を教室に掲示し、ペアトークやリレートーク、グループトークなどを様々な教科や場面で積極的に活用するため、以下のような工夫を行った。

- (1) 話型を活用し、他者と意見の同じ点、違う点をはっきりさせる。
- (2) グループ交流の際に司会を決め、全員に司会を経験させることで各自の話す力、聞く力を高める。
- (3) 付箋に自分の意見を書かせてから交流することで、各自意見をもって話し合いに参加させる。
- (4) 同意見や類似した意見のグループごとに発表させることで、自分のグループの考えと比較し、関心を持って聞くことができるようにする。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・ 視写により、児童が書くことに抵抗がなくなり、書くスピードも速くなった。
- ・ 感想文や創作文などで、原稿用紙1枚を書くことが精一杯だった児童も、2枚、3枚と書き進めることができるようになった。
- ・ 友だちの考えを書き出すことで、その良さに気づき、考えを深めることができた。
- ・ 低学年においては、気持ちを表す言葉を中心に、その言葉を使えるようになった。
- ・ 中・高学年において、わからない言葉に出会ったときに、辞書を用いて調べようとする意欲が増した。
- ・ 他者の考えと自分の考えを比較して聞くことができるようになった。
- ・ 書く力を身に付けてきたことで、自分の考えを表現することができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・ いろいろな言葉を知ろうとする意欲は出てきているが、定着には至っていないため、実際にその言葉を使う手立てを講じる必要がある。
- ・ 友だちの考えを使って自分の考えを深め、全体交流でも意見を交わせるように、「深い学び」の実現に向けて、学校全体で取り組んでいく。